

ChatGPT に聞いてみた 「豊田章男はスティーブ・ジョブズになれるか」

ChatGPT:

非常に刺激的で、本質的な問いです。

「豊田章男はスティーブ・ジョブズになれるか？」——これは単なる人物比較ではなく、\*\*日本企業の未来にイノベーションを起こせるリーダーは誰なのか？\*\*という問いでもあります。

結論から言えば:

✅ 「ジョブズ的な要素を持つ、日本型経営者」にはなり得る。しかし“完全なジョブズ”にはなれない。それでいい。

## 1. ✅ 共通点: 反骨心と“自ら変える”覚悟

項目	スティーブ・ジョブズ	豊田章男
出自	創業者(実質的に)	創業家(社長になるも、最初は傀儡扱い)
初期評価	傲慢・独善的	「世間知らずのお坊ちゃん」
転機	Apple 追放→復帰→iPhone	リーマンショック→社長就任→トヨタ改革
姿勢	破壊的改革者	保守本流の中の異端児

豊田章男は、社長就任当初は\*\*トヨタの“お飾り”\*\*と見られていましたが、リーマンショックや米国議会のリコール問題を契機に、「トヨタは変わらなければならない」と覚醒。現場に足を運び、自動車文化を理解するトップとして、トヨタの体質改善に取り組みました。

## 2. ✅ ビジョンを語れるトップ

スティーブ・ジョブズは「コンピューターを誰にでも使える道具にする」「1000 曲をポケットに」「電話を再発明する」など、ビジョンを明快な言葉で語る力がありません。

豊田章男も同様に、「クルマ屋からモビリティカンパニーへ」「人を移動させる喜びを再定義する」といった未来のトヨタ像を描く力を持っています。

「EV 化はゴールではなく手段」  
「本当に CO<sub>2</sub>を減らすことが目的だ」

——と語るように、単なる技術トレンドに流されない「軸のある思想」が見られます。

### 3. グローバルでの発信力とブランド改革

- ・ トヨタ・ガズー・レーシング (GR) を通じた「車を愛する文化」へのコミット
- ・ EV、HV、FCV といった多様な技術への投資
- ・ \*\*「走る楽しさ × 環境」\*\*というトレードオフの超越
- ・ そして、トップ自らがレースに出場する異例の姿勢


こうした姿勢は、Apple の「デザイン × 技術 × 感情」の融合に似ています。

### 4. 限界：ジョブズのような「破壊者」にはなれない

スティーブ・ジョブズは「現状を壊して創り直すことを恐れない人物」でした。  
Apple II や iPod の成功を壊してでも、Mac や iPhone に賭けることができた。

豊田章男は、トヨタという重厚長大な組織を“内側から”変えようとした人物です。  
つまり、「破壊者」ではなく「改造者」「橋渡し役」であり、革命家ではなく進化論者です。

この違いは決してマイナスではなく、日本企業の現実を考えれば「章男型ジョブズ」が最適解とも言えます。

 「スティーブ・ジョブズになれるか？」の本質的な問いへの答え：

“豊田章男はスティーブ・ジョブズのように、企業の“魂”を再定義した日本の数少ない経営者の一人だ。だが、彼はジョブズにはならないし、なる必要もない。彼は“日本型ジョブズ”という新しいリーダー像をつくり上げつつある。”

 補足：章男退任後のトヨタが試される

2023 年に社長を退き、佐藤恒治氏が新社長となりました。

章男が撒いた種を、文化として根づかせられるかどうか。そこが日本企業全体にとっても大きな試金石となります。